

## 福島第一原子力発電所現地確認報告書

### 1 確認日

平成31年 1月15日（火）

### 2 確認箇所

- ・サブドレン処理水一時貯水タンク、移送設備、バルブユニット
- ・5、6号機放水口北側（海水採取地点）
- ・地下水バイパス一時貯留タンク及び周辺

### 3 確認項目

- (1) サブドレン処理水の排水状況
- (2) サブドレン処理水排水に伴う海水サンプリング状況
- (3) 地下水バイパス一時貯留タンク付近の水溜まりの状況

### 4 確認結果の概要

#### (1) サブドレン処理水の排水状況について

サブドレン一時貯水タンクからの排水操作に立ち会い、水質が運用目標に適合していることが確認されたタンク（K）から、定められた手順により排水が行われていることを確認した。

- ・他のサブドレン一時貯水タンクの出口弁が閉じられていることを確認した後、排水対象のタンク（K）の出口弁が「開」操作された。

（写真1）

- ・排水開始後、配管経路等に漏えいなどの異常がなく、サブドレン処理水が排水されたことを確認した。（写真2）
- ・サブドレン処理水の排水口は海面下であり、排出水の状況は確認できなかったが、海面の状況に特段の異常はなかった。（写真3）



（写真1－1）

一時貯水タンク出口弁の確認状況



(写真1-2)  
一時貯水タンク (K) 出口弁の「開」  
操作の状況



排水ライン (A系)  
※今回使用したライン

排水ライン (B系)

(写真2)  
サブドレン処理水排水経路 (バルブ  
ユニット) の状況



排水ラインA系  
排水口  
※今回使用した  
排水口

排水ラインB系  
排水口

(写真3)  
サブドレン処理水排水口の状況

(2) サブドレン処理水排水に伴う海水サンプリング状況について  
サブドレン処理水排水に伴う海水の検体サンプリングに立ち会い、5、  
6号機放水口北側の海岸において、定められた手順によりサンプリングが  
行われていることを確認した。東京電力が分析を行う検体とともに、県が  
分析を行う検体が採取された。(写真4)



(写真4-1)



(写真4-2)

(3) 地下水バイパス一時貯留タンク付近の水溜まりの状況について

本日（1月15日）、地下水バイパス一時貯留タンク付近で水溜まりが発見されたとの情報があったことから、現場の状況等を確認した。

なお、水溜まりの発生原因は調査中である。

- ・水溜まりは、地下水バイパス一時貯留タンクエリアの東側の地下水バイパス一時貯留タンクグループ1-1周辺の外堰の外側に、三角形（底辺約10m×高さ約20m）の形で存在しており、深さ約10cmであった。付近には側溝はなかった。また、水溜まりの付近には、数本の配管が敷設されていたが、目視した範囲では、これらの配管からの水漏れは確認されなかった。（写真5）
- ・地下水バイパス一時貯留タンクの外堰内の床面は、濡れていた箇所があったものの、水溜まりは確認されなかった。（写真6）
- ・東京電力によると、溜まり水の汚染状況は、バックグラウンドと同程度で、塩分濃度が0%、pHが8.3とのことであり、また、溜まり水の放射能分析結果は、Cs-134が検出限界値未満（検出限界値:0.6Bq/L）、Cs-137が1.9Bq/L、全ベータが16.5Bq/Lとのことであった。



(写真5-1) 水溜まりの位置



(5-2) 水溜まりの状況



(写真6)

地下水バイパス一時貯留タンクグループ1-1周辺の外堰床面の状況

5 プラント関連パラメータ等の確認

各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。